土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 地明地区 測量設計地質調査業務委託(急傾斜地崩壊対策・交付金)

事業名 または 工事名 地明地区 測量設計地質調査業務委託(急傾斜地崩壊対策・交付金)

調査目的及び調査対象 その他 地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	No.3	**調査位置**	広島県庄原市西城町 小鳥原			**北緯**	35° 00′ 58.686″
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所			**調査期間**	2022年 11月 15日 ～ 2022年 11月 21日	**東経**	133° 09′ 12.306″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 499.68m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 34°
総削孔長	12.00m	**使用機種**	**試錐機** 東邦0-D	**エンジン**	ヤンマーNFD-13	**ポンプ**	東邦BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	498.68	1.00		砂混り礫質シルト	MG-S	黒		rc1	完新世	深度0.20mまでの表土を含む。 本片・木根を含む腐葉土。 中～粗粒砂を1割程度含む。 φ=10～40mmの角～亜角礫を3割程度含む。	
	495.18	4.50		礫・シルト混り砂	G_S-M	黄褐～淡黄褐	rd2			砂分は粗～中粒砂主体。 φ=10～30mm程度の角～亜角礫を2～3割程度含む。 シルト分を1～2割程度含む。 深度1.00m~1.90m，3.50m～4.00m間で黄褐色を呈し，含水中位のシルト混り砂となる。 この間以外は概ね礫質砂～礫混り砂となる。	
	493.08	6.60		シルト混り砂質礫	GS-M	淡黄褐	rd2			φ=15～60mmの角～亜角礫主体。 部分的に剥片状の礫を含む。 砂分は粗～中粒砂。 シルト分を1～2割程度含む。 手捻みでシルト～砂状に崩れる著しい風化を受けた礫と風化礫が混在。	
	490.78	8.90		流紋岩・礫質土	Ry_GF	黄褐～暗黄褐			後期白亜紀	岩盤等級D級。 指圧で容易に土砂状に崩れる。 コア表面は粗い。含水は中位。 採取コアは概ね棒状。 礫分主体であり，基質部はシルトを1～2割程度含む中～細粒砂。 岩組織及び亀裂は不明瞭。	
	487.68	12.00		流紋岩・軟岩	Ry_WR	暗青灰				岩盤等級CL～CM級。 採取コアは礫～大岩片状。 部分的に短柱状コアとなる。 深度10.38以深以深では岩片～短柱状コア。 割れ目角度70～85度，30～45度が認められる。 開口割れ目多く，割れ目は酸化変色している。 岩片・短柱状コアはハンマー軽打で密着割れ目沿いに割れる。 割れ目部以外ではハンマー強打で礫～岩片状に砕ける。	11/19 10.13

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
3	1.15	1	1	1	3/300		
	1.45						
10	2.15	3	3	4	10/300		
	2.45						
6	3.15	3	2	1	6/300		
	3.45						
10	4.15	3	3	4	10/300		
	4.45						
10	5.15	3	3	4	10/300		
	5.45						
12	6.15	4	3	5	12/300		
	6.45						
9	7.15	3	3	3	9/300		
	7.45						
12	8.35	5	4	3	12/300		
	8.65	貫入不能			30/0		
	9.00						
65	10.15	15	24	11	50/230	230	
	10.38			30			
	11.00	貫入不能			50/0		
	11.00						
	12.00	貫入不能			50/0		
	12.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					11/16
					11/17
					11/18
					11/19